

第10回日本モビリティ・マネジメント会議（東京） 開催概要

(2015/6/30 時点)

1. 主催者等（予定）

主催：（一社）日本モビリティ・マネジメント会議
共催：土木学会、筑波大学、（一財）計量計画研究所
協力：東洋大学
後援：国土交通省、東京都ほか（調整中）

2. 開催日・会場

2015年7月24日(金)～25日(土)
東洋大学白山キャンパス（東京都文京区白山5-28-20）

3. 想定参加者数

400名程度

4. プログラム（案）

1日目（7月24日（金））

13:00～14:30	<p>オープニングセッション 司会：谷口 綾子（筑波大学大学院 准教授）</p> <p>○開会挨拶 石田 東生(JCOMM 実行委員会委員長、筑波大学大学院 教授)</p> <p>○祝辞 太田 昭宏 国土交通大臣</p> <p>○講演 藤井 聡（京都大学大学院 教授） 「もしも交通行政担当者や交通事業者がドラッカーの『マネジメント』を読んだら」</p> <p>○JCOMM 賞授賞式 JCOMM マネジメント賞/プロジェクト賞/デザイン賞</p>
14:30～14:40	(休憩)
14:40～15:40	ポスター発表 A
15:40～18:00	JCOMM10 周年記念特別セッション（MM 書籍出版記念セッション） 「成功例」から読み解くMM ～人々の想いが繋ぐ成功物語～
18:00～18:15	(移動)
18:15～	意見交換会

2日目（7月25日（土））

9:00～10:00	<p>□頭発表 1 鉄道・バスサービスの共創～事業者と利用者のかかわりを考える～</p>
10:00～10:10	(休憩・レイアウト変更)
10:10～12:00	<p>企画セッション MM とデザイン ～コンセプト、機能、そして意匠～</p>
13:30～14:30	ポスター発表 B、口頭発表ツール展示、招待発表
14:30～15:30	<p>□頭発表 2 MM と IT ～イノベーションとのかしこい付き合い方を考える～</p>
15:30～16:00	<p>クロージングセッション 主催者挨拶・次回開催地挨拶</p>

第10回日本モビリティ・マネジメント会議

口頭発表・企画セッション・ポスター発表

(2015/6/29 時点)

●企画セッション・口頭セッション

1日目 (7/24(金))

JCOMM10周年記念特別セッション (MM書籍出版記念セッション)

「成功例」から読み解くMM～人々の想いが繋ぐ成功物語

1990年代にMMが日本に導入されて以後、行政、交通事業者、技術者、研究者等が立場の垣根を超えて様々な連携しながら、数々のMMプロジェクトが全国各地に拡がりをみせています。昨今ではようやく、バスや鉄道の利用者が目に見えて増える、都市圏全体の自動車分担率がはつきりと数字の上でも読み取れる形で減少する等、MMの努力が「実を結ぶ」事例も現れ始めました。

MMの成功物語を皆で共有していくことは、さらなる成功物語を各地で紡ぎ出すにおいて大変重要な意味を持ちます。

本企画セッションでは、JCOMM第10回大会を記念し、これまで日本で展開されてきた数々のプロジェクトの中から特にドラマチックな成功物語を取り上げ、それらに共通する「人々の想い」を読み解いていきたいと思えます。

コーディネーター：石田 東生 (JCOMM 実行委員会委員長、筑波大学大学院 教授)

パネリスト：

東 徹	一般社団法人システム科学研究所 部長
峯尾 祐司	江ノ島電鉄株式会社鉄道部旅客課 課長代理
大塚 直輝	江ノ島電鉄株式会社鉄道部駅 駅務掛
野村 文吾	十勝バス株式会社 代表取締役 社長
保坂 富士雄	秦野市公共交通推進課 課長
飯野 公央	島根大学 准教授

2日目 (7/25(土))

口頭発表1 (9:00-10:00)：

鉄道・バスサービスの共創 ～事業者と利用者のかかわりを考える～

人口減少、少子高齢化の進展することにより、公共交通サービスをとりまく環境は厳しさを増してきています。一方で地域の活力を維持し、強化するためには、公共交通ネットワークを確保することが課題となっています。

公共交通ネットワークを作り上げていくためには、公共交通事業者のみならず、行政や地域住民、利用者等、さまざまな主体で連携した取組みが不可欠です。

本セッションでは、公共交通事業者の皆様から公共交通ネットワークの確保やサービス水準向上の取組みについて話題提供をいただきます。話題提供を通じて、今後の公共交通サービスのあり方を探っていければと考えています。

コーディネーター：神田 佑亮(京都大学大学院 准教授)

O-1	日高 洋祐	東日本旅客鉄道株式会社	公共交通機関の情報連携に向けた 連携スキームの考察
O-2	奥田 開洋	西日本旅客鉄道株式会社	ローカル線にふさわしい 鉄道システムのあり方の検討
O-3	児玉 宜治	京都市交通局自動車部運輸課	京都市交通局 (市バス) 路線沿線における 地域主体のモビリティ・マネジメントと 一体となった路線・ダイヤの拡充について

企画セッション(10:10-12:00)

MM とデザイン ～コンセプト、機能、そして意匠～

広義の「デザイン」は「企画立案を含んだ設計あるいは意匠」を意味し、人間の行為をより良いかたちで適えるための「計画」の意味をも包含しています。言うまでもなく、MM ツールの役割は「人々の心をゆさぶり、行動を変えてもらうこと」です。MM ツールのみならず、プロジェクト全体を適切にデザインすることで、クルマからより持続可能な交通手段への転換が促進されることは間違いありません。

本セッションでは、効果的な MM に向けた「デザイン」を、①コンセプトからプロジェクト全体のディレクションを行うクリエイティブ・デザイン、②MM ツールの機能・意匠を具体化するグラフィック・デザイン、③行政による市民とのコミュニケーション・デザイン、④デザインの重要性を語り、組織を説得するためのコツ、等の観点から話題提供いただきます。これらにより、MM にデザインが果たすべき役割とは何かを考えるきっかけにしたいと考えています。

コーディネーター：谷口 綾子(筑波大学大学院 准教授)

登壇者：

片桐 暁 (株)アデイ クリエイティブ・ディレクター
 齋藤 綾 aya デザインオフィス
 西川 潔 筑波大学芸術専門学群 名誉教授 (元筑波大学副学長)
 村尾 俊道 京都府建設交通部 理事・交通政策課長
 柳沢 拓哉 八戸ポータルミュージアム コーディネーター

口頭発表 2 (14:30-15:30)：

MM と IT ～イノベーションとのかしこい付き合い方を考える～

モビリティを取り巻くイノベーションは、情報通信技術 (IT) の飛躍的な進展により数年前には想像できないような環境の変化を起こしています。今やスマートフォンは日常生活に無くてはならないデバイスになり、スマートフォンを通じた様々なコミュニケーションのツールが我々の生活を豊かなものにしてきていると確信しています。

イノベーションが人々の移動する喜びを与え、よりより交通社会に導いていくのは、言うまでもなく、我々が「かしこく」イノベーションと付き合い、「かしこく」利用していくことに他なりません。

本セッションでは、モビリティ・マネジメントの基盤となる運行管理データや地図データの活用、スマートフォンを用いた移動支援に関する話題提供をいただきます。話題提供を通して、イノベーションとのかしこい付き合い方を考えるきっかけになればと考えています。

コーディネーター：牧村 和彦 ((一財) 計量計画研究所 次長)

0-4	村尾 公一	東京地下鉄株式会社	東京メトロの「オープンデータ活用」の取組
0-5	山崎 基浩	豊田都市交通研究所	スマートフォンを用いた 助言型 ISA システムの開発と効果検証
0-6	野津 直樹	株式会社ナビタイムジャパン 交通コンサルティング事業	バス時刻表データ整備による ナビゲーション・交通分析の実現

※タイムテーブル、発表番号。セッションタイトル等は変更の可能性があります

●ポスター発表

1日目 (7/24(金) 14:40-15:40)

PA-1	植田 公一	京都市都市計画局 歩くまち京都推進室	小学校における「歩くまち・京都」プロジェクト ～モビリティ・マネジメント教育の継続的・広域的展開に向けて～
PA-2	岡本 英晃	交通エコロジー・ モビリティ財団	モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）の普及に向けた 手引書の作成
PA-3	稲村 輝	札幌市市民まちづくり局 総合交通計画部	札幌市内全小学校への拡大的展開を見据えた MM 教育の実践的取り組み
PA-4	中嶋 清則	京都府建設交通部交通政策課	京都府における交通環境学習のこれまでの取り組み評価と 普及方針の検討
PA-5	岩崎 裕直	仙台市青葉区役所	地下鉄新駅の開業を捉えたまちづくり促進施策について
PA-6	後藤 美菜子	仙台市都市整備局 公共交通推進課	地下鉄東西線開業に向けた「せんだいスマート」
PA-7	中嶋 清則	京都府建設交通部交通政策課	戦略的 MM の展開による新設！南部広域バス利用促進プロジェクト
PA-8	立川 太一	中央復建コンサルタンツ	特定交差点の渋滞緩和を目的とした 4 年間の モビリティ・マネジメントの取組
PA-9	田原 浩二	国土交通省北海道開発局 札幌開発建設部 都市圏道路計画課	札幌都市圏における通勤 MM の取組
PA-10	山口 晋弘	日本工営株式会社大阪支店	商業店舗との連携による「ベスト運動」の推進効果の検証と今後の展望
PA-11	飯野 宏洋	大分大学経済学部	WHO「Age Friendly City」チェックリストを踏まえた 高齢化時代の商店街のあり方に関する研究
PA-12	楠 崇史	大分大学経済学部	大分県豊後大野市「大人の社会見学」からみた高齢者の 豊かな生活のための地域づくりと公共交通のあり方に関する研究
PA-13	田中 徹	大阪大学文学部	大学生を中心とした公共交通の利便性認識に関する空間分析
PA-14	田中 勝也	埼玉県都市整備部都市計画課	出歩きやすいまちづくり～バスでつなぐ・人がつながる～ 「バスまちスポット」「まち愛スポット」の展開
PA-15	枝久保 達也	東京地下鉄 鉄道本部 鉄道統括部お客様サービス課	東京地下鉄案内冊子「メトロのトリセツ」の発行による 利用促進の取り組み
PA-16	福井 裕明	ケー・シー・エス	コーちゃんバス買い物ツアー
PA-17	兒玉 崇	阪神高速道路保全交通部	ドライバーへの働きかけによる交通安全対策 「阪高 SAFETY ナビ」の拡充
PA-18	福井 のり子	バイタルリード	地域公共交通の 3 つの見える化に対応した機器の開発
PA-19	伊藤 昌毅	東京大学 生産技術研究所	公共交通情報のオープンデータ配信によるコミュニティバス利用促進
PA-20	加藤 研二	阿南高専創造技術工学科 (建設コース)	テレビとスマートフォンを使用した個別コミュニケーションの 利用による避難準備意識と災害時避難行動の変化
PA-21	太田 恒平	ナビタイムジャパン 交通コンサルティング事業	携帯カーナビプローブデータを用いた右左折方向別の 交差点分析 (全国版)
PA-22	村上 ひとみ	山口大学	市民団体提案によるうべ自転車レーン実現への道のりと 利用促進・ルール啓発の取組
PA-23	石山 哲也	国土交通省関東地方整備局 東京国道事務所交通対策課	国道 246 号の安全な自転車利用環境の創出に向けた取組み

※ポスター発表（1日目）に、JCOMM 賞受賞展示を行います。

※タイムテーブル、発表番号。セッションタイトル等は変更の可能性があります。

2日目 (7/25(土) 13:30-14:30)

□招待発表 (ポスター)

Marcus Enoch 氏 (英国 Loughborough University)

タイトル: The Past, Present and Future Development of Mobility Management and Travel Plans in Europe and beyond

(ヨーロッパ及び周辺国でのMMとトラベルプラン(移動計画)~これまでと今後の展望)

□ポスター発表

PB-1	加藤 秀樹	豊田都市交通研究所 研究部	加東市における超小型 EV を活用したスマートムーブの推進
PB-2	西堀 泰英	豊田都市交通研究所	4年目のひょうごスマートムーブの取り組み
PB-3	菅沼 博喜	鈴鹿 F1 日本グランプリ 地域活性化協議会	鈴鹿 F1 日本グランプリにおける交通円滑化の取り組み
PB-4	多久和 岬	徳島大学大学院	健康情報提供による交通手段転換意向に関する分析
PB-5	神田 佑亮	京都大学大学院	やっぱりクルマは不健康?! ~都道府県別にみる交通行動と心身の健康~
PB-6	藤本 宣	筑波大学大学院 システム情報工学研究科	モビリティ・マネジメントにおける動機付け情報の効果に関する研究
PB-7	佐藤 良太	筑波大学大学院 システム情報工学研究科	乗客からの褒賞提供による 路線バス乗務員の態度・行動変容の効果分析
PB-8	鈴木 春菜	山口大学大学院理工学研究科	あいさつ運動がバス運転手の態度・行動に及ぼす影響
PB-9	森山 真之介	山口大学	地域交通施策における住民の機運に影響を与える要因
PB-10	山室 良徳	中央復建コンサルタンツ 計画系部門	地域住民が主体となって運営する 持続可能な地域公共交通の実現に向けた取り組み
PB-11	石川 雄己	名城大学	住民意見を反映したバスマップ改良による コミュニティバス利用意識向上効果 ~愛知県東郷町「じゅんかい君」をケーススタディとして~
PB-12	井上 学	平安女学院大学国際観光学部	地域住民の主体的な関与によるバス運営の手法 - 京都府宇治市の事例から -
PB-13	城平 徹	ケー・シー・エス 東京支社	廃止バス路線の復活から地域住民への定着につなげた バス利用促進の継続的取り組み
PB-14	川本 義海	福井大学大学院工学研究科	福井県におけるクルマに頼り過ぎない社会づくりの取り組みと 今後の展開
PB-15	雨宮 康治	山梨県県土整備部都市計画課	クルマ中心の山梨県での“エコ通勤”への取り組みについて
PB-16	芝海 潤	株式会社ライテック	さいたま市における継続的なエコ通勤の実施
PB-17	中野 匡基	豊橋市都市計画部 都市交通課	豊橋市職員が取り組むエコ通勤
PB-18	大野 悠貴	H・O・T Managers 弘前大学大学院 地域社会研究科	「ひろさき交通まち育てコンソーシアム」の設立について ~市民・住民が主体となった多様性あふれる交通への 参加に向けた仕組みづくり~
PB-19	後藤 正明	NPO 法人持続可能なまちと交通をめぐす再生塾	総合交通政策推進のための実務者教育の実践 - NPO 再生塾の施策実現に向けた新たな取り組み -
PB-20	永見 正行	TMO	交通ゲームの開発と実践概要について
PB-21	芝崎 拓	北海道開発技術センター	北見市における子供を対象としたバス利用促進イベントの開催
PB-22	若山 裕一	ITS アライアンス株式会社	三沢市コミュニティバスにおけるバス接近通過お知らせツール 「あしあとランプ」の導入と利用者にやさしい情報提供の取り組み

O-1	日高 洋祐	東日本旅客鉄道	公共交通機関の情報連携に向けた連携スキームの考察
O-2	奥田 開洋	西日本旅客鉄道	ローカル線にふさわしい鉄道システムのあり方の検討
O-3	児玉 宜治	京都市交通局自動車部運輸課	京都市交通局(市バス)路線沿線における地域主体のモビリティ・マネジメントと一体となった路線・ダイヤの拡充について
O-4	村尾 公一	東京地下鉄株式会社	東京メトロの「オープンデータ活用」の取組
O-5	山崎 基浩	豊田都市交通研究所	スマートフォンを用いた助言型 ISA システムの開発と効果検証
O-6	野津 直樹	ナビタイムジャパン 交通コンサルティング事業	バス時刻表データ整備によるナビゲーション・交通分析の実現

※ポスター発表(2日目)に、JCOMM 賞受賞展示、口頭発表(O-1~O-6)のツール展示を行います。

※タイムテーブル、発表番号、セッションタイトル等は変更の可能性があります。